

SD エンターテイメント

4650 東証 JASDAQ

2016 年 2 月 23 日（火）

Important disclosures
and disclaimers appear
at the back of this document.

企業調査レポート
執筆 客員アナリスト
浅川 裕之

■ 中長期的な持続的成長に向けて、収益体質の地道な改善が続く

SD エンターテイメント〈4650〉は北海道地盤の、ゲーム、ボウリング、映画など総合娯楽施設やフィットネスジムを全国で展開する企業。2014 年 1 月に健康コーポレーション〈2928〉グループ入りして以来事業構造改革を進め、現在は 2021 年 3 月期に売上高 150 億円の達成を目指して収益拡大策に取り組んでいる。

2016 年 3 月期の第 3 四半期（2015 年 4 月－12 月）連結決算は、売上高 6,017 百万円、営業利益 68 百万円で着地した。通期予想に対する第 3 四半期までの進捗は遅れ気味だが、原因は明確で、一過性もしくは既に解決済み、改善が見られる要因がほとんどだ。これらの要因が取り除かれることは、2017 年 3 月期の増収増益につながっていくものと弊社では見ている。

今後の注目点として、フィットネス事業の新プログラムの本格展開、GAME 事業の店舗改装及びスクラップアンドビルド効果、ボウリング事業の持続的回復などを挙げることができる。加えて、2017 年 3 月期については連結子会社の収益改善も大きなポイントだ。2016 年 3 月期の業績未達懸念の大きな部分を、介護事業を担う連結子会社（株）フォーユーの業績低調とリストラの影響が占めているが、2017 年 3 月期はこれが一掃されると見られるためだ。

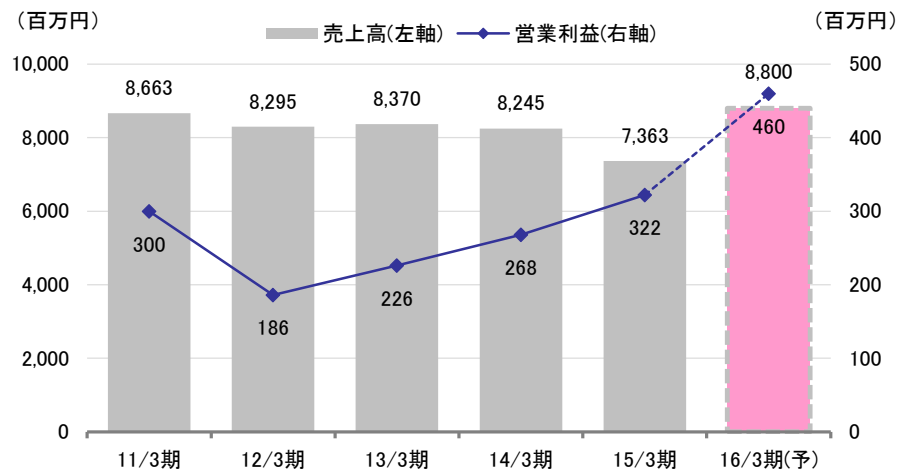
株主還元についての意識が高い点は従来と変化はない。仮に、今期業績が未達となった場合、現在公表されている配当予想が引き下げられる可能性はある。一方で、現在の配当予想は新株発行による希薄化リスクを加味したものとなっているが、新株発行はあまり進んでいない。結果的に、業績未達の場合でも配当引き下げの影響を和らげる効果が期待できる。充実した株主優待策も株主還元のバリューを高めるのに寄与している。

■ Check Point

- ・ 中期成長のメイン・エンジンと位置付けるフィットネス事業
- ・ 2016 年 3 月通期は従来予想を維持、最需要期の 4Q に期待
- ・ 2017 年 3 月期は増収増益の可能性が高い

2016 年 2 月 23 日（火）

業績の推移



出所：短信等からフィスコ作成

■ 2016 年 3 月期第 3 四半期決算

第 3 四半期の連結業績は売上高 6,017 百万円、営業利益 68 百万円で着地

2016 年 3 月期第 3 四半期決算は、売上高 6,017 百万円、営業利益 68 百万円、経常損失 54 百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失 85 百万円で着地した。同社は 2016 年 3 月期第 1 四半期決算から連結決算に移行したため、前年同期比較はない。2016 年 3 月期第 3 四半期決算を総括すると、第 2 四半期までは順調な進捗を見せていたが、第 3 四半期（10 月－12 月期）に入って、GAME 事業、フィットネス事業、子会社の（株）フォーユーで予想を下回り、その結果、第 3 四半期（累計）決算では通期計画に対する進捗に遅れが目立った。

同社の収益状況を把握するうえでは、SD エンターテイメント単体と連結子会社とに分けると理解しやすい。単体決算を見ると売上高は前年同期比 9 百万円の減収となったが売上総利益は 41 百万円の増益となった。しかし、販管費が 72 百万円増加したため営業利益は 31 百万円の減益となっている。

売上高の伸び悩みは、GAME 事業において主力店舗の一部で改装のための休業したことや、フィットネス事業において新プログラムの開発が計画よりも遅れたことなどが影響したと見られる。売上総利益の増益にはボウリング事業の収益拡大などが寄与した。他方、フィットネスの新プログラム開発費用や改装関連費用などが販管費を押し上げ、営業利益を圧迫した。

SD エンターテイメント単体決算の状況

（単位：百万円）

単体ベース	13/3 期 3Q 累計	14/3 期 3Q 累計	15/3 期 3Q 累計	16/3 期 3Q 累計	前年同期比	16/3 期 3Q 単独	前年同期比
売上高	6,151	6,142	5,426	5,417	-0.2%	1,752	-0.4%
営業利益	60	134	140	109	-22.1%	24	-53.8%
経常利益	-60	24	30	-11	-	-6	-
当期純利益	-95	-349	102	-57	-	9	-

出所：説明会資料からフィスコ作成

2016 年 2 月 23 日（火）

同社は中核連結子会社としてエムシーツー(株)とフォーユーの 2 社を擁している。エムシーツーは通信事業、カウネット事業などを営み、黒字体質が定着している。しかし、今年度はフォーユーのマイナス影響が強く出る状況となっている。フォーユーは東京都内でデイサービスや訪問看護などの介護事業を営んでいるが、赤字に苦しんできた。同社はフォーユーを連結以来、事業所閉鎖などのリストラを行ってきた。今第 3 四半期（2015 年 10 月－12 月期）にリストラ関連損失のヤマ場を迎えたため、第 3 四半期業績の足を引っ張った。

連結決算と単体決算の比較表

（単位：百万円）

単体ベース	15/3 期 3Q 累計	15/3 期 3Q 単独	16/3 期 3Q 累計	前年同期比	16/3 期 3Q 単独	前年同期比
売上高	5,426	1,759	5,417	-0.2%	1,752	-0.4%
営業利益	140	52	109	-22.1%	24	-53.8%
経常利益	30	13	-11	-	-6	-
四半期純利益	102	-22	-57	-	9	-

（単位：百万円）

連結ベース	15/3 期 3Q 累計	15/3 期 3Q 単独	16/3 期 3Q 累計	前年同期比	16/3 期 3Q 単独	前年同期比
売上高	-	-	6,017	-	2,054	-
営業利益	-	-	68	-	-11	-
経常利益	-	-	-54	-	-37	-
四半期純利益	-	-	-85	-	-6	-

出所：説明会資料からフィスコ作成

事業部門別動向

中期成長のメイン・エンジンと位置付けるフィットネス事業

(1) フィットネス事業

同社は「SD フィットネス中期ビジョン」を策定してフィットネス事業を中期成長のメイン・エンジンと位置付けている。その具体策として、親会社の健康コーポレーションが手掛ける RIZAP のノウハウやデータを活用して高収益型事業モデルに転換すべく、新プログラムの開発に取り組んでいる。この新プログラムはグループレッスンという特徴から「FIVE」と命名され、東京都・国立店でテスト中である。

一方で同社は、従来から「SLIT」と呼ぶダイエットプログラムや、加圧トレーニング、バイクエクササイズなどを独自に展開してきた。出店先の地域の特性やニーズに応じて、それら独自プログラムをブラッシュアップして集客につなげる取り組みも行っている。また、フィットネス事業の最大のポイントは人材であるとの考えから、人材教育にも注力している。さらには、健康コーポレーショングループとのコラボレーションの一環として、RIZAP で採用する KPI（重要経営指標）を導入し、3 年後の目標達成に向けて取り組んでいる。

フィットネス事業の主要 KPI

KPI	目標	16/3 期 3Q 累計実績	15/3 期 実績	備考
1 見学入会率	70.0%	59.7%	52.3%	10 月単月では 67.0% に上昇
2 紹介率	2.0%	1.0%	1.1%	
3 退会率	3.0%	3.2%	3.5%	
4 TSS 予約率	100.0%	78.8%	79.3%	
5 TSS 初回受講率	100.0%	72.9%	74.8%	幽霊会員の活性化目標
6 初期定着率	95.0%	85.6%	84.9%	
7 6 ヶ月継続率	80.0%	71.2%	69.9%	
8 12 ヶ月継続率	60.0%	50.0%	48.1%	

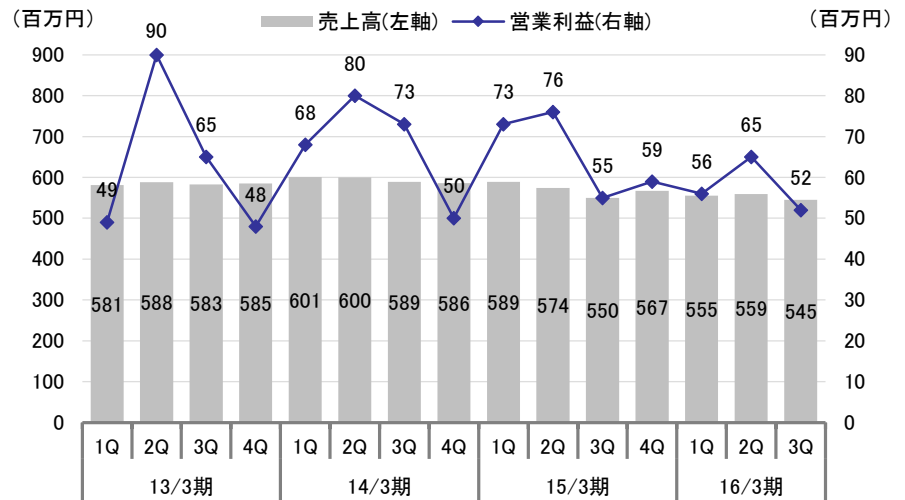
出所：説明会資料からフィスコ作成

2016 年 2 月 23 日（火）

こうした取り組みの具体的な成功例も出てきている。三重県・津店では 10 月に単月入会者 242 名と過去最高を記録したほか、その内訳として半分以上の 130 名が会員紹介という結果を残すことができた。また、独自のバイクエクササイズプログラムについては、秋田県・秋田広面店に設備投資を行って規模拡大することを決定した。同社ではこうした成功事例や先行実験店舗での結果を全店で共有して次の成功へつなげる流れが定着している。

足元の業績は絶好調とは言えないまでも、回復基調にある。今第 3 四半期累計の売上高の前年同期比は 3.1% 減、同じく営業利益は 15.2% 減となっている。しかし第 3 四半期単独期間だけを取り出すと、売上高は 0.9% 減、営業利益は 5.5% 減とマイナス幅が縮小してきている。FIVE の本格展開の遅れなどの影響を考慮すれば、第 3 四半期までの業績は健闘していると評価できるだろう。10 月～11 月期において 1,500 名近くの入会者を獲得したが、ここからの会費収入が 2016 年 1 月から入ってくる見通しで、今後の利益回復に期待が高まる。

フィットネス事業の売上高・営業利益の推移



出所：説明会資料からフィスコ作成

地道な集客努力が結実したボウリング事業

(2) ボウリング事業

同社はボウリング事業の回復に向けて地道な集客努力を積み重ねてきたが、今第 2 四半期において、それが実を結んだ。具体的な施策の 1 つが LTB (Learn to Bowling) と呼ぶボウリング教室だ。これは昼間の閑散時間帯に高齢者や有関者を呼び込むための施策として始めたものだが、これが軌道に乗ってきた。今秋の秋季コースでは 258 名の受講者を集め、受講率は定員の 93% に達した。LTB は初心者を対象としているが、同社はさらに固定化を図るために、ワンランクアップのボウリング教室も開催している。それがプロボウラーによるグループレッスンだ。料金設定は LTB 教室に比べて高額となっているが、プロの指導をより細やかに受けられるということで出だしから好評のもようだ。

また、ファミリー層の掘り起こしにつなげるべく、ジュニアボウリング教室の開催や、補助スロープ設置、子供でも投げやすいキッズボールやガーターのないバンパーレーンの導入などを行っている。直近（2016 年 1 月中旬）では、ジュニアボウリング教室の更なる活性化に向けて「無料お試し券」配布を開始した。

SD エンターテインメント

4650 東証 JASDAQ

2016 年 2 月 23 日 (火)

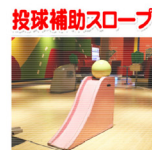
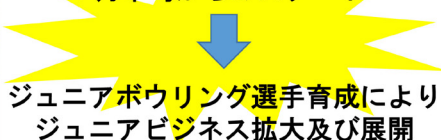
ジュニア向けの施策例

ジュニアボウリング教室開始

●未来のボウラーを育むプロジェクトにプロの知識と技術を活用



白石・手稲・麻生店にて
1月中旬からのスタート



キッズボール



バンパーレーン

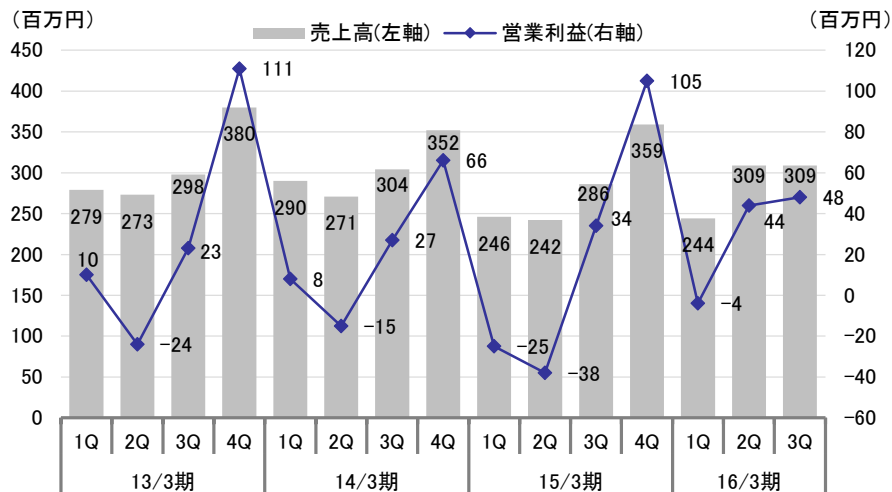


出所：2016 年 3 月期第 3 四半期説明会資料

ボウリング教室を通じた新たなボウリング顧客層の“掘り起こし”から“育成”、そして“固定”の流れはほぼ確立したと言え、これが今期のボウリングの復調へとつながっている。同社は今後も中高年層の掘り起こしを進める一方、ファミリー層や若年層への訴求を強め、ボウリング事業の収益底上げと持続的成長を図っていく方針だ。

2016年3月期第3四半期（単独）のボウリング事業の収益は、売上高が309百万円、営業利益が48百万円で、直前の四半期から高水準横ばいとなった。「横ばい」にとどまったのは、その前の第2四半期が前述のように収益が伸長したためで、今第3四半期の業績も高水準であることに変わりない。第3四半期は年末で、比較的利幅の薄い団体予約がほぼ満杯のため、利幅の高い個人需要を取り込みにくく、収益を大きく伸ばしにくいという事情もある。第4四半期（2016年1月－3月期）には、継続的な集客努力の効果が再び顕在化してくると弊社では見ている。

ボウリング事業の売上高・営業利益の推移



出所：説明会資料からフィスコ作成

2016 年 2 月 23 日（火）

店舗のスクラップアンドビルドを進める GAME 事業

(3) GAME 事業

GAME 事業のスタンスは従来と変わっていない。業界全体が縮小傾向の中、体力に比較的余裕のある同社は残存者利益を目指して有望物件があれば積極的に出店し、他方、自社物件の中でも非効率な店舗は閉鎖を断行するというものだ。この基本方針に基づき、同社は 2016 年 3 月期中において 3 店舗を開店し、2 店舗を閉鎖する計画だ。

GAME 事業店舗一覧

施設名	所在地	稼働状況
ディノスパーク旭川買物公園	北海道旭川市	稼働中
ディノスパーク北見	北海道北見市	稼働中
ディノスパーク帯広稲田	北海道帯広市	稼働中
ディノスパーク音更	北海道音更町	2016/3月開設予定
ディノスパーク函館昭和	北海道函館市	稼働中
ディノスパーク上磯	北海道北斗市	2015/12月開設
ディノスパーク伊達	北海道伊達市	稼働中
ディノスパーク丸亀 VASALA	香川県丸亀市	稼働中
ディノスパーク四万十	高知県四万十市	稼働中
ディノスパーク守山	愛知県守山市	FY15Q2閉鎖
ディノスパーク南福島	福島県福島市	2015/5月開設

出所：会社資料からフィスコ作成

店舗のスクラップアンドビルド以外にも同社は、札幌市内の主力店舗で大規模改装に踏み切った。改装のポイントは、朝までの営業時間延長を優先して風営法対象外となる機器の設置を行ってきたものを、風営法対象となっても集客の見込める機器を設置することを優先することに戦略変更を行う点だ。深夜帯の来店客数が減少している現状に対応するのが狙いだ。改装に当たっては、休業による機会損失、一度離れた客を取り戻すためのキャンペーン費用など、業績への影響は大きかったが、改装が完了した 2016 年 1 月からは徐々に改装効果が顕在化してくると期待される。

前回のレポートで紹介した遠隔操作型クレーンゲーム事業は、「ぼちっとクレーン」のサービス名で 1 月 25 日から開始された。現時点では特段の広告宣伝は行っていないが、開始後 3 日間で約 500 名が会員登録するなど、まずは順調な滑り出しとなったようだ。今後はオリジナル景品開発などで景品の充実や広告宣伝活動を行って、収益貢献事業に育成していく予定だ。

GAME 事業の 2016 年 3 月期第 3 四半期（単独）の業績は、32 百万円の営業損失となった。これは前述した改装に伴う休業損失が理由だ。既存店の中では 2 ケタの既存店増収率を記録する店舗も複数あり、同社の残存者利益を狙う戦略は一定の効果を出している。休業損が消え、かつ、スクラップアンドビルドの効果も出ると期待される第 4 四半期（2016 年 1 月－3 月期）の収益状況を見守りたい。

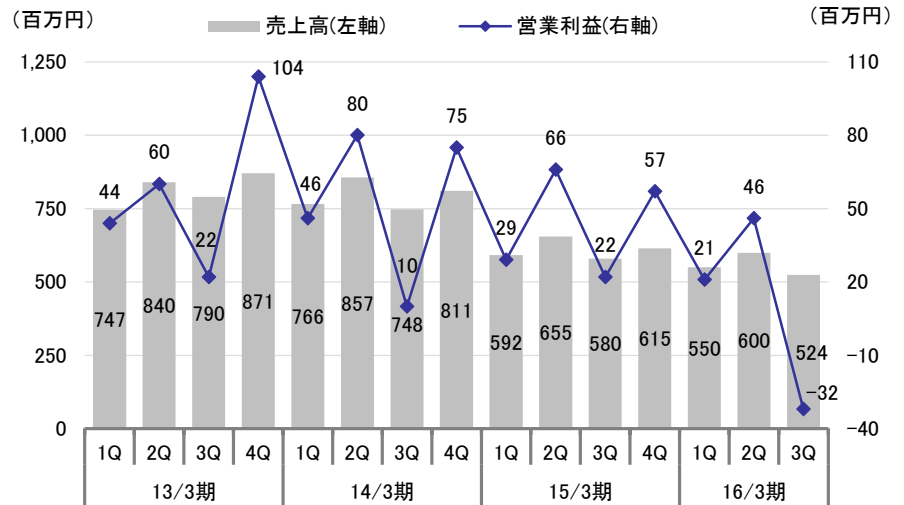


SD エンターテインメント

4650 東証 JASDAQ

2016 年 2 月 23 日（火）

GAME事業の売上高・営業利益の推移



出所：説明会資料からフィスコ作成

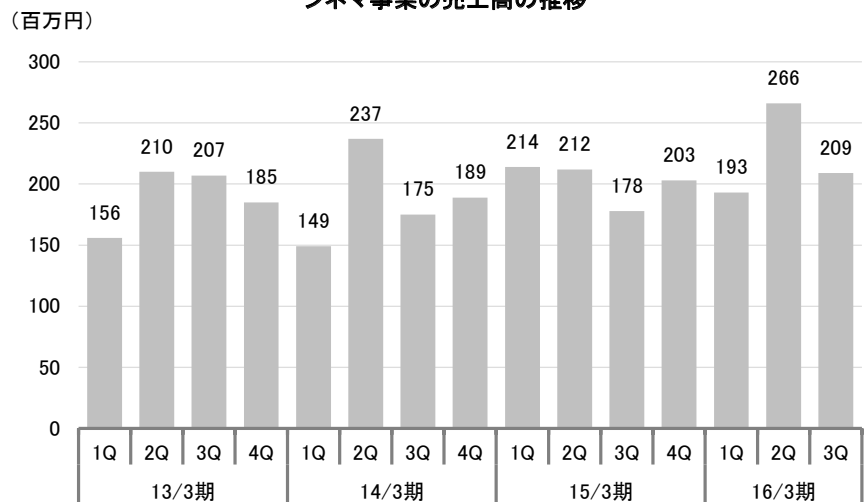
ヒット作に恵まれ好調なシネマ事業

(4) シネマ事業

同社のシネマ事業は北海道内 4 施設（札幌、旭川、苫小牧、室蘭）で行われている。シネマ事業は、ヒット作に恵まれるかどうかという外部要因への依存度が高いという特徴を持っている。

2016 年 3 月期第 3 四半期は、前年同期比 17.4% 増収となった。お盆・夏休み期間を含む第 2 四半期が同 25.5% 増だったため勢いが鈍った印象もあるが、第 3 四半期（単独）の売上高水準としては、ここ数年で最高値となっている。年末商戦においてはスターウォーズや妖怪ウォッチなど話題作も多く、また、コンサートライブ上映などの非映画作品も好調で、収益を押し上げた。

シネマ事業の売上高の推移



出所：説明会資料からフィスコ作成

2016 年 2 月 23 日（火）

早期の黒字化を目指す介護事業

(5) 介護事業（子会社フォーユー）

同社は東京都を地盤として介護事業を行う（株）フォーユーを子会社化して介護事業への本格進出を決断した。フォーユーは、理学療法士出身の社長のもと、デイサービスを中心事業として業容を拡大させてきたが、近年は介護保険報酬の引き下げや訪問看護ステーションの初期立ち上げ費用負担などが重石となって、経営状態が悪化していた。

同社はフォーユーを子会社化して以来、リストラ策として非効率なデイサービス拠点の閉鎖や訪問看護事業の一時中止などを行った。その結果、2016 年 3 月期第 3 四半期において、フォーユーの事業で多額のリストラ関連損失を計上することとなり、同社の連結決算にもマイナス影響を及ぼした。

こうしたリストラ策が奏功し、フォーユーの収益面では出血が止まり、2016 年 2 月には単月黒字化のめどが立った。2016 年 4 月からは、主力のデイサービスに加え、訪問看護ステーションの再立ち上げ及び放課後等デイサービス（身体障害者の児童・生徒を対象とするサービス）への進出を通じて収益拡大を狙う方針だ。

フォーユー単独の業績の詳細は公表されていないが、もう 1 つの中核子会社であるエムシーソー（株）は黒字が定着していることを考えると、同社決算の連単差はフォーユーの業績（赤字決算）によるものと推定できる。2017 年 3 月期には黒字化が期待され、近々の主要な業績改善要因の一因となってくるため、今後の推移を見守りたい。

■ 業績見通し

2016 年 3 月通期は従来予想を維持、最需要期の 4Q に期待

(1) 2016 年 3 月期見通し

同社は 2016 年 3 月期通期について従来予想を維持しており、売上高 8,800 百万円、営業利益 460 百万円、経常利益 320 百万円、当期利益 280 百万円を予想している。同社が地盤とする北海道では冬季の第 4 四半期（2016 年 1 月－3 月期）が室内型である同社の事業の最需要期に当たるため、そこでの回復を期待していることが従来予想維持の背景にある。

2016 年 3 月期通期予想の概要

（単位：百万円）

連結ベース	15/3 期（単体ベース）				16/3 期				
	2Q 累計 実績	3Q 累計 実績	4Q 単独 実績	通期 実績	2Q 累計 実績	3Q 累計 実績	3Q 単独 実績	4Q 単独 予想	通期 予想
売上高	3,667	5,426	1,937	7,363	3,963	6,017	2,054	2,783	8,800
営業利益	88	140	182	322	79	68	-11	392	460
経常利益	17	30	148	178	-17	-54	-37	374	320
当期利益	124	102	183	285	-79	-85	-6	365	280

出所：短信等からフィスコ作成



SD エンターテイメント

4650 東証 JASDAQ

2016 年 2 月 23 日（火）

しかしながら、第 3 四半期までの進捗が低調だった結果、通期予想実現のためには第 4 四半期に売上高で 2,783 百万円、営業利益で 392 百万円を超えなければならない。過去実績に照らしても、第 4 四半期だけでこのような高水準の収益を達成するのはかなりハードルが高いといえ、今期の通期予想が未達となるリスクを視野に入れておくべきであると弊社では考えている。

各事業部門の動向の詳細は前述のとおりだ。フィットネス事業は新プログラムの本格展開の時期と、新規会員獲得を始めとする KPI の改善動向がカギとなる。ボウリング事業は団体需要が落ち着いて受け入れキャパに余裕が出てくるため、第 2 四半期に見られたような個人需要の底上げによる収益拡大が期待される。GAME 事業は店舗の改装及びスクラップアンドビルドの効果の発現が期待される。また、「ぼちっとクレーン」の浸透具合も注目点だ。

2017 年 3 月期は増収増益の可能性が高い

(2) 2017 年 3 月期業績の考え方

2017 年 3 月期の業績は、前期比増収増益になってくる可能性が高いと弊社では考えている。事業部門別では、ボウリング事業は前期比で増収増益を維持してくると期待している。GAME 事業は、2016 年 3 月期中のスクラップアンドビルドの効果が通期寄与してくることで、前期比増収増益は十分可能と見ている。フィットネス事業は新プログラムの内容と本格展開の時期がポイントとなる。新プログラムがヒット商品となればフィットネス事業の収益急拡大も期待できるが、そうならない可能性も冷静に見ておく必要はある。新プログラム要因を抜いて考えた場合でも、人材強化や KPI 改善運動などによる会員数増により、増収増益は十分可能であると弊社では見ている。

2017 年 3 月期に最も明確な増益要因と期待されるのは、連結子会社 2 社だ。エムシーツーは通信事業とカウネット事業中核事業として安定した収益が見込まれる。2016 年 3 月期が 9 ヶ月間の連結であったのに対して 2017 年 3 月期はフル寄与となるため、これだけで増益効果が期待できる。もう 1 つのフォーユーは、2016 年 3 月期はリストラ損失などで、連結決算の足を引っ張った。2017 年 3 月期は黒字化が期待されており、黒字額によっては前期比で数千万円の増益要因となる可能性がある。

2017 年 3 月期の業績の具体的金額については会社予想を待たねばならない。仮に、2016 年 3 月期の業績が現在の会社予想に対して未達となった場合には、2017 年 3 月期の収益目標は 2016 年 3 月期の期初予想に再チャレンジとなると想定することが可能だろう。



SD エンターテイメント

4650 東証 JASDAQ

2016 年 2 月 23 日（火）

簡略化損益計算書及び主要指標

（単位：百万円）

	13/3 期	14/3 期	15/3 期	16/3 期（予）		
				3Q 累計	4Q 単独（予）	通期（予）
売上高	8,370	8,245	7,363	6,017	2,783	8,800
前期比	0.9%	-1.5%	-10.7%	-	-	-
売上総利益	6,571	6,446	6,032	4,684	-	-
前期比	-0.1%	-1.9%	-6.4%	5.8%	-	-
売上高売上総利益率	78.5%	78.2%	81.9%	77.8%	-	-
販管費	6,345	6,177	5,709	4,616	-	-
前期比	-0.7%	-2.6%	-7.6%	7.7%	-	-
売上高販管比率	75.8%	74.9%	77.5%	76.7%	-	-
営業利益	226	268	322	68	392	460
前期比	21.4%	18.9%	20.1%	-	-	-
売上高営業利益率	2.7%	3.3%	4.4%	1.1%	14.1%	5.2%
経常利益	62	116	178	-54	374	320
前期比	167.0%	86.6%	53.4%	-	-	-
当期利益	59	-484	285	-85	365	280
前期比	-	-	-	-	-	-
分割調整後 EPS（円）	7.02	-57.10	33.50	-9.90	41.12	31.22
分割調整後配当金（円）	0.50	0.00	6.70	-	-	8.86
分割調整後 BPS（円）	278.4	222.3	256.1	-	-	-

貸借対照表

（単位：百万円）

	12/3 期	13/3 期	14/3 期	15/3 期	16/3 期 3Q
流動資産	1,244	1,197	1,280	1,383	1,825
現金	795	799	840	956	1,119
売掛金	136	150	130	148	307
その他	313	248	310	279	399
固定資産	9,465	9,191	8,590	8,182	8,215
有形固定資産	7,887	7,688	7,099	6,719	6,591
無形固定資産	29	26	45	49	218
投資等	1,548	1,476	1,445	1,412	1,405
繰延資産	15	28	59	78	70
資産合計	10,725	10,417	9,930	9,645	10,111
流動負債	3,202	3,200	3,644	3,033	3,082
買掛金	148	176	166	144	289
短期借入金等	1,565	1,667	1,978	1,841	1,601
その他	1,489	1,357	1,500	1,048	1,192
固定負債	5,183	4,839	4,394	4,418	4,883
長期借入金	3,565	3,491	3,501	3,651	4,172
その他	1,618	1,348	893	767	711
株主資本	2,310	2,370	1,875	2,177	2,133
資本金	948	948	100	100	148
資本剰余金	1,128	1,128	1,977	1,806	1,855
利益剰余金	253	313	-175	285	142
自己株式	-20	-20	-26	-14	-13
評価換算差等	24	0	11	10	5
新株予約権	4	5	5	6	5
純資産合計	2,339	2,376	1,891	2,193	2,144
負債・純資産合計	10,725	10,417	9,930	9,645	10,111

2016 年 2 月 23 日（火）

キャッシュフロー計算書

（単位：百万円）

	12/3 期	13/3 期	14/3 期	15/3 期	16/3 期 2Q
営業活動によるキャッシュフロー	637	798	687	765	166
投資活動によるキャッシュフロー	-700	-130	162	134	143
財務活動によるキャッシュフロー	91	-665	-808	-784	350
現預金換算差額	0	1	0	1	1
現預金増減	28	4	41	116	660
期首現預金残高	767	795	799	840	956
期末現預金残高	795	799	840	956	1,616

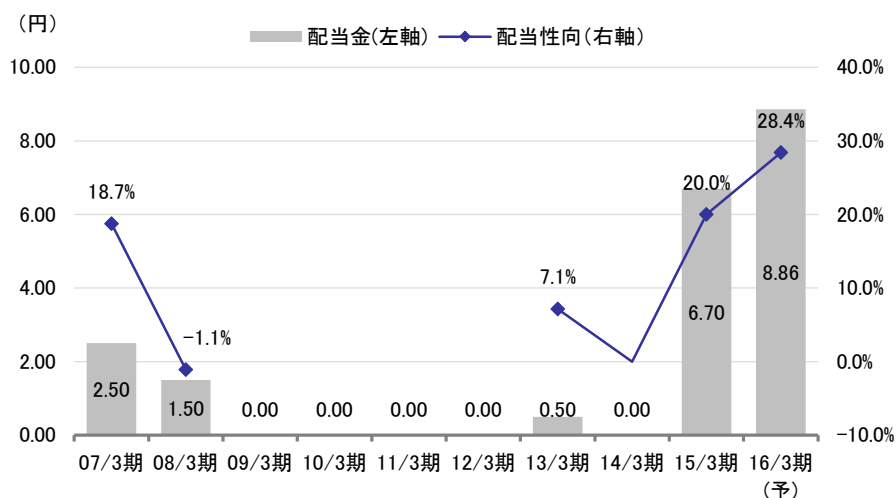
株主還元

8.86 円配当を予想、株主優待を組み合わせた株主還元

同社の株主還元策は、配当金を基本としつつ、消費者向け事業を行っている点を生かして、株主優待を組み合わせたものとなっている。2016 年 3 月期については、8.86 円を予想している。これは 2015 年 3 月の新株予約権発行に伴う希薄化（最大 93 万株、約 11%）を考慮した上で、公約配当性向 30% を当てはめて導かれたものだ。9 月末時点の株式発行数は 15 万株にとどまっている。

一方で、前述のように今通期決算が会社予想に対して未達となるリスクもある。仮に未達となった場合には配当金が予想を下回る可能性が出てくる。弊社では、業績未達となった場合でも、新株発行が進まない（すなわち希薄化が進まない）ことである程度相殺され、期初予想の 8.86 円に近い配当金となると見ている。

1 株当たり配当金と配当性向の推移



出所：決算短信からフィスコ作成

2016 年 2 月 23 日（火）

■株主還元

同社はまた、株主優待制度も設けている。株主優待は、最低取引単位である 100 株の保有から権利が得られるほか、今回、1,000 株以上の保有者向けの枠を新設した。権利確定は年 2 回（3 月末、9 月末）としており、より株主優待を得られやすくなっている。内容も、従来からの施設利用券に加えて健康コーポレーションの商品が加えられ、選択肢の幅が広がっている。配当金と合わせた実質的株主還元のバリューはかなり高いと言える。

株主優待の概要

所有株式数	優待内容
100株	当社株主優待券(映画・ボウリング等ご招待券)4枚 または、3,000円相当の健康コーポレーショングループ商品
200株	当社株主優待券(映画・ボウリング等ご招待券)8枚 または、6,000円相当の健康コーポレーショングループ商品
400株	当社株主優待券(映画・ボウリング等ご招待券)16枚 または、12,000円相当の健康コーポレーショングループ商品
600株	当社株主優待券(映画・ボウリング等ご招待券)20枚 または、15,000円相当の健康コーポレーショングループ商品
1,000株以上	当社株主優待券(映画・ボウリング等ご招待券)24枚 または、18,000円相当の健康コーポレーショングループ商品



出所：2016 年 3 月期 3Q 決算説明会資料

ディスクレーマー（免責条項）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ